一般社団法人　山梨県理学療法士会会報誌　▸▸▸　令和5年9月

supporters

サポーターズ

No.162 2023秋号

一般社団法人 山梨県理学療法士会ホームページ　http://ypta.jp/　会員数978名　施設数160（R5.8.22現在）

「supporters（サポーターズ）」とは…　我々理学療法士が社会に寄与していく職種であることを思い、『支える人』という意味のsupporterに複数形のsを加え、supporters：支える人たち（造語）の意味です。

日本理学療法士協会の腰痛予防事業が２０２０年に続き「２０２２職場における腰痛予防宣言！」が厚生労働省後援で行われました。

今回、山梨県でこの事業に参加された病院をご紹介いたします。

山梨県でリハビリテーションに関わる仲間の健康を守りたい。そんな思いから今回のテーマは、「山梨県の職場における腰痛予防」といたしました。

協会の事業は終了いたしましたが、これを機に職場の健康をさらに守り、また得られた腰痛予防の知識・技術を県民に還元できる一助になればと思っています。

※協会ホームページ（会員限定コンテンツ内）にて、本事業に使用できる資料・教材の閲覧はできます。

CONTENTS

「２０２２職場における腰痛予防宣言！」に参加して …… 2～3
代表理事挨拶 …… 4
令和５年度一般社団法人山梨県理学療法士会
定期総会報告 …… 5
活動報告 …… 6～7
事務局からのお知らせ …… 8～9
リレーエッセイ Part 44 …… 10～11
原稿募集 …… 10　編集後記 …… 11

「2022 職場における腰痛予防宣言！」に参加して

リハビリテーション療法科　小平　将工
（上野原市立病院）

人生 100 年時代といわれる中、日々、過酷な業務をしながら、できるだけ長く元気で動ける身体で最後まで走り抜けたいと感じている方も少なくないと思います。しかし、我が国の医療・看護職を含む医療保健衛生業に関わる職種における業務上疾病の約 81％を腰痛が占めていると報告されており、ほとんどの方が仕事中に腰痛を経験していることになります。したがって、我々医療保健に関わる者にとって腰痛予防対策は急務であり、日本理学療法士協会では令和４年９月～令和５年３月下旬にかけて「2022 職場における腰痛予防宣言！」と題し、協会会員の所属する施設において理学療法士がその専門性を生かして腰痛予防に取り組むといった啓発事業が推奨されていました。

一方、当院では職員の環境健康を改善する衛生委員会から腰痛予防研修会を開催して欲しいとリハビリテーション療法科に依頼があり、院内でも腰痛予防に意識が高まっている状況でありました。そこで、リハビリテーション療法科としても病院へ貢献できる良い機会だと考え、医師・事務・理学療法士で協力し、看護部及び事務部に向けた腰痛予防研修会を企画準備することとなりました。準備の段階で資料や情報収集する中で理学療法士協会 HP にて今回の理学療法士協会の事業を知り、協会への協力を含め、事業の一環として研修会を実施するに至りました。

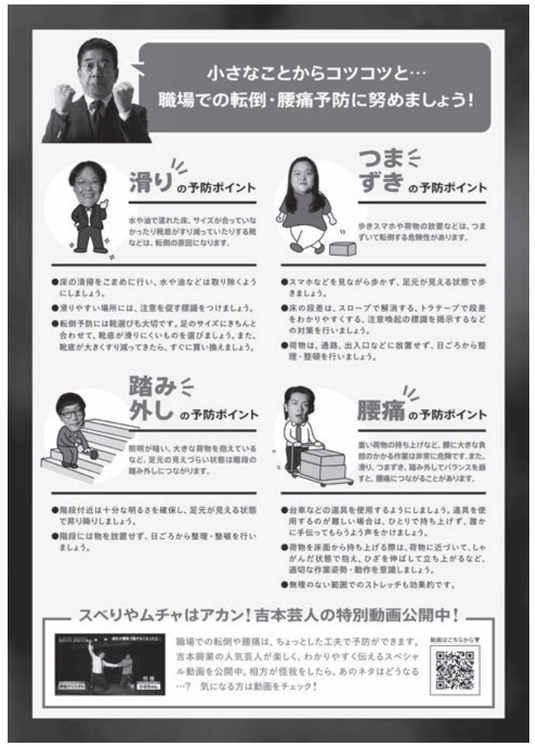
研修会は令和４年11月17日に開催いたしましたが、事前にアンケートを実施し、回答していただいた139人のうち90人、約６割が現在も腰痛があるとの結果になりました。中には下肢に痺れがあるとの回答もあり、当院における腰痛予防対策は重要であると感じました。研修会では腰痛は種類や原因が異なるため、代表的な疾患等を挙げ、その疾患に応じた治療体操の目的と方法を紹介し、業務中や自宅でも簡単にできる腰痛体操の解説をしました。症状に応じ注意しなければならない留意点を理解してもらう事と、業務における姿勢や介助方法を理解してもらう事の２つに焦点を置き、実演を交えながら１時間程度お話させていただきました。

コロナ第７波後の期間中であったため研修会の開催にあたっては、感染対策のために参加人数を絞り、会場も席の間隔を空けるなど対策を講じたため、参加人数は 30人程度となってしまいました。可能であれば、それぞれの身体機能や状況の評価を行い、症状に合った腰痛体操や腰痛予防のための介助方法等を、個々の状態に応じて実技を交えて体験していただきたかったのですが過度な接触を避けるため実技は代表者の実演に留めざるを得ませんでした。しかし、研修後は病棟で看護師や看護助手から腰痛や移乗方法の相談を受けることが多くなり、それぞれが腰痛に対して予防意識を持つ良い機会になったと同時に、他部署とのコミュニケーションの機会も増え、我々専門職への理解や期待も

高まったと感じています。

しかしながら、現在の当院の腰痛予防事業としては研修会を開催したまでに留まっています。そのため個人だけでなく職場全体で腰痛予防に取り組むといった意識を高め、腰痛予防に必要な知識・技術を周知することが今後の課題と思われます。したがって定期的な研修会の実施や掲示物の利用により職員１人１人が腰痛予防への意識や知識を高めていくと同時に、毎日決まった時間にアナウンスを行い、腰痛体操を実施する時間を作るなど、病院全体で腰痛予防に取り組めて行けたら良いと考えています。

今回の事業を契機に、我々理学療法士が専門職として健康維持に関わることは臨床業務や自治体等の健康増進事業だけでなく、職員など身近な人々にも貢献できることがあると実感しました。またこの事業を継続し質を高めていくことが理学療法士の価値を上げることに繋がると思いました。



＊現在、厚生労働省は委託事業「職域における転倒・腰痛の広報事業一式」（委託先：吉本興業株式会社）による「スベっちゃダメよ！転倒予防　ムチャしちゃダメよ！腰痛予防“全国スベっちゃダメよキャンペーン”」を行なっています。

代表理事挨拶

Message from Representative Director

山梨県理学療法士会
会長

磯野　賢

甲州リハビリテーション病院

「これまでの１年・これからの１年」

平素から山梨県理学療法士会の運営におきましてご理解・ご協力いただきましてありがとうございます。昨年、この機会をいただいたとき「これからの２年」と題してお話をさせていただきましたが、早１年が経ちました。昨年につきましても新型コロナの影響を受け士会の活動は多くの活動が Web でのものとなりました。

そのような中でも、協会の進める生涯学習　登録理学療法士制度が開始される中、県士会としても出来る限り、県士会員の皆様が、登録理学療法士を取得あるいは継続できるよう支援を始めてきました。

また、士会として初めての学術誌「理学療法やまなし」を発刊することが出来ました。ハードルを低くし、多くの士会員が興味を持ち、投稿でき続けて行けるようなものとなればと考えております。

そして、長年の課題でありました、会員同士又は会員の所属機関が横のつながりを持てる組織を目指し、士会支部局を立ち上げ支部活動が始まりました。今後更に活動を進め、ネットワークの構築を図っていきたいと思います。

県民に向けた取り組みとして、昨年初めて県内の企業から依頼をいただき「職場における腰痛予防講座」を実施しました。労働災害防止のため事業場において理学療法士等を活用して労働者の身体機能の維持改善を図ることは有用であるとの観点から、第14次労働災害防止計画において「理学療法士等を活用」することが明記されました。理学療法士の役割が、予防そして健康増進という領域に広がってきています。県士会においても今後取り組んで行くべきものの一つになると考えます。

今年度は、感染状況を注視しながらとはなりますが、研修会等を Web から参集形式に変更し、実際に見て感じることが出来るようトライして行きたいと思います。そして次の時代を見据えて、組織体制を検討し、継続性のあるものにするとともに、事務局の機能強化・負担軽減のための DX 化を進めて行きます。

今年度も誰かがやっている士会ではなく、みんなで作る・参加する士会を目指し、「自分が所属する大切な仲間がいる場所」にしていければと思います。ご協力、ご支援のほどよろしくお願いいたします。

令和５年度　一般社団法人山梨県理学療法士会

定期総会報告

事務管理局 局長 **有泉 静佳**
（山梨県立あけぼの医療福祉センター：yamanashi.pt.jimu@gmail.com）

令和５年６月14日（水）に行われた、一般社団法人山梨県理学療法士会　令和５年度定期総会についてご報告いたします。

１、定足数の報告、出席者・委任状について

５月15日現在、正会員数９４３名に対して

・ 出席者数３３名（うちオンライン参加２８名）
・ 委任状数５９４名

よって、一般社団法人山梨県理学療法士会定款（以下、定款とします）第21条に則り総会は成立いたしました。

２、議事

提案されたすべての議事については、承認されました。

一方で参加された会員からは、

・ 監査報告の総括にも記載があった、一般企業向けに行われた腰痛予防教室などの運動器系への取り組みについては、士会全体で検討を重ねてほしい
・ コロナ禍において行われたフレイル予防などを新聞広告へ掲載した取り組みは良かったが、一般の方が見てもわかりやすい周知の仕方、HP の掲載方法などを更に検討してほしい

との意見もいただきました。

これにつきましては、更に検討を重ね充実させていきたいと思います。

総会の議事録や組織図は当士会 HP に掲載されていますので是非一度ご覧になってください。

本年度の総会も COVID-19 感染拡大のため、会員の皆様には総会への参加の自粛と書面による決議権の行使をお願いし、会場である事務所では必要最小限のスタッフ、そのほかの執行部役員はオンラインでの参加となりました。

皆様のご協力のおかげで無事総会を開催することができました。ありがとうございました。

各部活動報告

認知症対策委員会

令和４年度は、「RUN伴やまなし２０２２」「笛吹市立御坂図書館イベント」の２つのイベントの参加と研修会を開催しました。

１０月２２日に「RUN伴やまなし２０２２」が「やまなしプラザ」で開催されました。RUN伴は「認知症の人や家族、支援者、一般の人がリレーをしながら、一つのタスキをつなぎゴールを目指すイベント（https://runtomo.org/）」です。しかし残念ながらコロナ禍のため、タスキのリレーは行わず「あおぞらオレンジカフェ」と題して、「旅の言葉カード」体験や「N-impro」体験を行いました。また各医療職団体などの展示ブースや談話会もあり、山梨県理学療法士会では理学療法ハンドブック（認知症）等の配布や、ロコモチェックを行いました。多くの一般参加者があり、久しぶりのイベント開催にうれしくなりました。

１１月２０日は、「学びの杜みさか」にて「認知症フレンドリー山梨」による「笛吹市立御坂図書館イベント」に参加しました。趣旨として「認知症、介護、終活、色々なことが起こる高齢期。高齢者について楽しく学べるイベント」でした。モルックや車椅子体験、読み聞かせなど様々な企画があり、私たち理学療法士会でもRUN伴同様の活動を行いました。

両方のイベントで１００名（ラン伴４２名、御坂図書館４８名）のロコモチェックを行い、理学療法の啓発とともに運動と認知機能の繋がりなども理解していただけたのではないかと感じました。

認知症対策委員会の研修会では、２月８日オンライン研修会の形でテーマを「認知症を考える」と題して、甲州リハビリテーション病院　地域リハビリテーション推進課　課長　作業療法士である森　彰司　先生にご講演いただきました。普段、認知症の患者様に接している態度や言葉遣いなど、私たちが気をつけなければいけないことを解りやすく教えていただきました。また、「できないことに目を向けるのではなく、できることに目を向けよう」と話され、症例紹介を交えながらの実りある講演でした。

令和５年度も様々なイベントへの参加や研修会も企画しております。県士会員の方々と一緒に活動を行っていきたいと考えていますので、興味のある方はどうぞご連絡ください。

★ お問い合わせ先：認知症対策委員会　清水 真治
（石和温泉病院：ynintisyoupt@ymail.ne.jp）

がんリハビリテーション推進委員会

令和５年２月２５日に山梨県委託事業として、山梨県リハビリテーション専門職団体協議会（以下、協議会）が主催し、２つの研修会を開催いたしました。

研修会は、「第４回山梨県がんをもつ方のリハビリテーション公開講座」「第２回がんを持つ方のリハビリテーション専門研修」としまして、それぞれ講演とシンポジウムを開催しました。

公開講座では、神戸大学大学院医学研究科 酒井良忠教授により『がん患者のリハビリテーション診療とがんロコモ』と題してご講演をいただきました。

シンポジウムは、テーマ『がん患者のリハビリテーションの実際～各専門職種から～』として、山田洋二氏（石和共立病院　理学療法士）小林克也氏（山梨県立中央病院　作業療法士）安藤牧子氏（慶応義塾大学病院　言語聴覚士）よりそれぞれ発言と議論を行いました。参加者は公開講座７８名、専門職研修７１名でした。セラピスト以外にも医師、歯科医師、看護師のご参加をいただき、がんリハビリテーションへの関心の高さが窺えました。

がんリハビリ推進委員会では、今後さらに県士会員、地域住民の方へ情報を発信する活動を行って参りたいと思います。

★ 問い合わせ先：がんリハビリテーション推進委員会　山田 洋二
（帝京科学大学：y-yamada@ntu.ac.jp）

企画研修部

今回は、働きやすい環境創り検討委員会との共催で、『リハビリテーション部門の働き方改革』『リハビリテーション部門の人事育成の考え方と手法』というテーマで、高木綾一先生（株式会社 Work Shift）にご講演いただきました。両日ともに 300 名を超えるリハ専門職の先生方にご参加いただきました。

講義を通して感じた事は、リハビリテーション部門のマネジメントは必須であり、私たち管理者も経験則のみでなく、手法や制度について把握しておく必要があると強く感じました。地域やその他企業など多方面で活躍する為にもチームをまとめる能力は必要だと思います。

引き続き企画研修部では、年２回の研修会を開催して参ります。業界のトピックスや県内で必要性のある研修会を企画しております。多くの先生方のご参加お待ちしております。

★ 問い合わせ先：企画局企画研修部　大西 健太
（フルリールむかわ：kenta.4786@gmail.com）

事務管理局からのお知らせ

◆ 会員情報の変更手続き（異動、休会、退会、会費納入方法等）について

（公社）日本理学療法士協会HPの「マイページ」から手続きを行ってください。
マイページにアクセスするには、協会が各個人に発行したIDとパスワードが必要です。
「IDやパスワードがわからない」、「そもそもインターネット環境が無い」という会員の方は、お手数ですが日本理学療法士協会まで問い合わせをお願いします。

（公社）日本理学療法士協会　TEL：03-5843-1747

＊会員情報につきましては、（公社）日本理学療法士協会の会員管理システムにて一括管理されているため、県士会では対応ができません。

◆ （公社）日本理学療法士協会の年会費割引制度の案内

日本理学療法士協会には年会費の「育児休業割引」、「シニア割引」、「海外会員割引」があります。
詳細は日本理学療法士協会HP「年会費」をご覧ください。

◆ 会員の慶弔があった場合について

一般社団法人山梨県理学療法士会　慶弔規定に基づき対応いたします。
山梨県士会HPの「お問い合わせ」のページ内にある「会員慶事通知フォーム」、「会員弔事通知フォーム」からお願いします。

◆ 事務管理局への問い合わせについて

山梨県士会HPの「お問い合わせ」のページ内にある「事務管理局メールフォーム」からお願いいたします。

＊インターネット環境がない会員の方は、

山梨県立あけぼの医療福祉センター　療法科内　担当　有泉
TEL：0551-22-6112（療法科直通）までお願いします。

◆メール配信について、アドレス登録のお願い

士会では研修会の通知や情報提供をメール配信にて行っています。
会員の皆様には、アドレス登録についてご協力いただきますようお願いいたします。

・登録メールアドレスは１会員１アドレスでお願いします。
・一度登録したアドレスを変更する場合は、登録解除フォームにて登録メールを解除後に、新しいアドレスを登録しなおしてください。

メール登録フォームURL：
http://form3.yptamail.info/fm/mailUserExt/showRegisterForm?gpid=rpnONZthgtfUqrwtLaiOgzf

登録メール解除フォームURL：
http://form3.yptamail.info/fm/mailUserExt/showUnregisterForm?gpid=rpnONZthgtfUqrwtLaiOgzf

＊会員番号について

一部の先生から会員番号について問い合わせがきています。
会員番号は日本理学療法士協会と共通になっております。
会員カードに記載されている8桁の番号になります。
理学療法士免許の登録番号ではありません。

ここに記載されている8桁の番号です

◆ アドレス登録をしたのにメールが届かない場合

メール配信を開始後、エラーメールになるアドレスが一定数あります。

①ご登録のアドレスがキャリアメールの方へのお願い
（@以下が、“docomo.ne.jp”、“ezweb.ne.jp”、“i.softbank.jp”等のアドレス）
キャリアメールは受信に際し初期設定から、セキュリティレベルが非常に高いです。そのためパソコンから送られたメールや、メール内容にURLが含まれるとスパム（迷惑）メールと判断され、「迷惑メールフォルダ」に格納、もしくは受け取れないようになっています。
キャリアごとに解決方法が異なっているので、各社のホームページをご確認の上、下記のメールアドレスのご登録をよろしくお願いいたします。

yamanashi.pt.jimu@yptamail.info

②登録したメールアドレスが入力ミスにより間違っている。
ご登録いただいたメールアドレスに「登録完了のお知らせ」のメールが届いたら登録が完了です。メールが届かない場合はメールアドレスが間違っていると思われますので再度、登録フォームより始めからやり直してください。

また、パソコンやスマートフォンのセキュリティが万全の方は、フリーメール（ヤフーメールやGメール等）での再登録も検討してみてください。

＊令和5年4月1日から7月10日までのメール配信数は15件です。

＼途絶えることのないバトンを君に／

リレーエッセイ

『リレーエッセイ』とは…

士会員を対象に、身近な出来事・お国自慢・今はまっていること・病院紹介など、何でもよい（ただし、誹謗や中傷の内容は除外します）ので400字程度で執筆していただき掲載していく企画です。

以前のSupportersにあった「会員のひろば」との違いは、会員同士の輪を広げるということで、執筆された方が次の執筆者を決めて、紹介していただくという点です。無理やり書いていただくわけではなく、執筆者同士の繋がりを大切にしていきたいと考えていますので、依頼を受けた方は快く執筆していただけたらと思います。

リレーエッセイ

Part 44-1

加納岩総合病院　松木 僚治

湯村温泉病院の菊池卓先生よりバトンを頂きました、加納岩総合病院の松木僚治です。

COVID-19も5類へと移行となり、少しずつですが以前のような活気ある生活へと近づいているのではないかと思います。まだまだ感染には注意が必要ですが、これからも多くの方々との交流を深めていきたいものですね。

私生活においては、昨年8月に誕生した息子が1歳を迎えました。言葉通りではありますが、子供の成長は早いものだなと改めて感じております。子供は本当に純粋で、眠たくなれば泣き、お腹が空けば泣き、何か嫌なことを感じていれば泣きます。嬉しい・楽しいと感じた時には満面の笑みを見せてくれます。そんな息子に日々癒されながら、家族との充実した生活を送っています。私自身も、息子が見せてくれるような純粋な心というものを忘れずに、何事にも挑戦していきたいと思います。

次回は貢川整形外科病院の小林裕司先生にバトンをお渡しします。よろしくお願い致します。

原稿を募集しています！

会報部では会員の声を少しでも多く取り入れたいと考えております。テーマ等は自由です。

1. 研修会・勉強会等の開催案内・報告内容など
2. 各種お知らせ事項など　3. 体験記など　4. その他

注意　内容の規定はありませんが、個人・団体等の中傷あるいはこれに準ずるものは不可。

※ 第163号発行は、2024年3月を予定しています。

原稿の締め切りは

1月中旬です。

● 問い合わせ先：広報局 会報部　宇月正明
春日居サイバーナイフ・リハビリ病院
TEL：0553-26-4126　FAX：0553-26-4366
E-mail：kaihoushiyamanashipt@yahoo.co.jp

リレーエッセイ

Part 44-2

健康科学大学　大塚 篤也

特別養護老人ホーム田富荘の渡邊先生よりバトンを頂きました。健康科学大学の大塚篤也です。

新型コロナウイルス感染症が5類感染症に位置づけられ、本学のクラブ活動が活発化してきました。コロナ禍では、次々にクラブが解散してしまったのですが、今では元に戻りつつあります。今年度から大会に出場する報告もあり、少しずつ大学の活気が戻れば良いな…と願っております。

さて、そんな中、スポーツ内科関連の研究がしたい学生が増えてきました。スポーツ内科という言葉は聞き慣れないと思いますが、運動・スポーツにより生じる様々な内科的問題（貧血、喘息、無月経など）に予防・治療を行う分野であります。以前、私は酸化ストレスに関する研究を行っており、学生が興味を示してくれたことにとても嬉しく感じております。これまで制限されてきた学びの場が少しずつ解放されることを祈っております。

次回は木下整形外科の手塚武士先生にバトンをつなぎます。

編集後記

全ての医療・福祉に従事している方々と、お忙しい中、快く執筆をしていただいた諸先生方に感謝申し上げます。

さて、とある討論番組で、「ChatGPT」が議論の種となっていた。文章生成 AIだ。教育機関での使用の是非を話している。大学機関では論文査読において判断に窮するか。そんな討論を聞いて、ふと思う。

全能の逆説（omnipotence paradox）「全能者は《自分が持ち上げることのできない石》を作ることができるか」作れなければ全能でなくなる。また作れた時点で全能者は持ち上げられず、これも全能でなくなる。「ChatGPT」を「全能」と定義はしないが、「ChatGPTが作った論文の見分け方を教えて？」と AI相手に意地の悪い質問を大人気なくしてみたいと。ただ、しれっと大人の意見的に答えるんだろうな、AI。

また会報誌発行の際には引き続きご協力お願いいたします。　宇月　正明

【 発　行 】 一般社団法人　山梨県理学療法士会
【 代　表 】 磯野 賢
【 企画・校正 】 宇月 正明　古澤 淳一　進藤 圭一郎　立澤 俊貴　一瀬 智之
【 編集・印刷 】 株式会社 たけまる
【 会 報 部 】 〒406-0014 山梨県笛吹市春日居町国府436
医療法人 景雲会 春日居サイバーナイフ・リハビリ病院
TEL：0553-26-4126　FAX：0553-26-4366
E-mail：kaihoushiyamanashipt@yahoo.co.jp